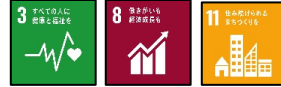


「ふまねっと運動」を活用した介護予防に資する住民主体の通いの場の運営事業

<b>取組開始時期</b>	平成18年6月	<b>取組の カテゴリー</b>	高齢者福祉・介護	<b>応募部門 (○を付ける)</b>		<b>PF会員間連携部門</b>	○	<b>一般部門</b>
<b>1. 団体名</b>	社会福祉法人池田町社会福祉協議会		<b>2. 連携先の 団体</b>	◎池田町、特定NPO法人ふまねっと、池田町町内会連合会、池田町老人クラブ連合会、 ワインタクシー(株)、ワインスタンプ会				
<b>3. 取組 目的</b>	人口減少と高齢化の加速する主に人口1万人以下の自治体において、介護予防に資する住民主体の通いの場を確実に創出できるシステムを構築したい。			<b>4. 関連する ゴール</b>				

## 5. 取組経緯

人口減少と高齢化が今後加速する中で、介護サービス不足や介護の担い手不足の課題がより深刻になっていくことが予測される。平成18年度の介護保険制度改正で介護予防施策が始まったが、増えていく要介護者に従来の介護サービスだけで対応するのでは事態は悪化すると考え、住民自身に「介護に備える」ことに取り組んでもらうため「ふまねっと運動」に取り組んでもらった。

## 6. 取組概要（100字以内） ※1次選考にて、投票ページに掲載します

町内会長らに介護予防プログラム「ふまねっと運動」を体験してもらい、全町的に取り組むことを決め有志で団体を立ち上げ、年間約260日健康教室を開催。当初5年間プロジェクトとして取り組み始め今年で15年。第8期の介護保険料は下がり、全道で最も下げ幅が大きくなった。

### 画像（会員投票の際のサムネイル）



## 取組のポイント（3つの視点）

### 地方創生SDGsの視点

人口減少と高齢化の課題は、全国共通の課題。高齢期から新たな友人を作り続けるきっかけとして特定NPO法人ふまねっとが開発した「ふまねっと運動プログラム」をステークホルダーが連携し活用することで、人と人、人と場所をつなぐことができる。高齢者が地域の中に役割を持ち続けることができ、介護予防の効果が期待できる。

### ステークホルダーとの連携

行政、社協、住民が三位一体となって、住民主体の介護予防教室の運営が維持されている。北海道において高齢者がボランティア活動を継続していくためには移動の支援が不可欠であり、ワインタクシーがボランティアを移送することで、農村地区にデイサービス施設を創らなくても良い状況になり、介護コスト削減に寄与している。

### モデル性・波及性

本事業の重要な役割を果たす特定NPO法人ふまねっとは、1年前からZOOMで自宅からの参加者への個別指導を無料で行っており、すでに全国から参加している。よって今後は遠隔サポートも充実し、全国どこの自治体へも指導が可能となる。行政、社協などに理解が進めば、1万人以下の自治体でも取り組み効果が期待できる。

